

## 慶沢園の運営条件、概況について

### 1 運営条件

#### (1) 大阪市公園条例第9条に定める有料施設

##### ア 慶沢園の営業日時

- ・1月2日から12月28日(月曜日(その日が休日に当たるときはその翌日)を除く)
- ・5月及び9月の土日祝は午前9時30分から午後6時まで
- ・その他の日は、午前9時30分から午後5時まで

##### イ 茶室(長生庵)の営業日時

- ・1月5日から12月28日(月曜日(その日が休日に当たるときはその翌日)を除く)
- ・午前9時30分から午後4時30分まで

※上記ア・イ以外の臨時営業については、要協議

##### ウ 入園料等使用料

慶沢園入園料は受注者が徴収し本市に納付、茶室使用料は本市が徴収するものとする。金額については、令和7年3月1日からのものであり、契約期間内に改定することがある。

##### 【慶沢園入園料】

- ・大人300円 大学生・高校生200円  
(当日の美術館特別展観覧券を提示した場合は、各100円引き)
- ・慶沢園・美術館共通入場券：大人600円 大学生・高校生300円

##### 【茶室使用料】

- ・1回(1日)20,000円 1回(2時間)7,000円

#### (2) 大阪市文化財保護条例第6条で指定された文化財

現状の景観を変更する新たな建築物の設置は不可。ただし、教育委員会との協議を行ったうえでの簡易な仮設物の設置は可

#### (3) 現在の状況とリニューアルオープンについて

現在、美術館とあわせたりニューアルオープン(令和7年3月予定)をめざし、令和7年2月末まで改修工事を行っており、2月末には美術館とあ寄せた内覧会を実施する予定である。

## 2 慶沢園の概況について

住友家茶臼山本邸は、大阪市立美術館の背後に位置し、面積 19.800m<sup>2</sup>、東西・南北各 150m 弱のほぼ方形の敷地であり、突出する西北部に茶室を備える。当時約 2 万坪の敷地に対し 1,100 坪の書院造風建築と池泉回遊式庭園が広がる邸宅であった。

慶沢園は、岡山の後樂園や金沢の兼六園を参考に作庭されたと考えられており、巨石を贅沢に使用し、池とクロマツ・ツツジ類を中心に構成されている。作庭当時は、南の書院座敷から、敷地中央の池、北東の丘や滝、南岸の喚魚亭、北の留春亭などを楽しむ構成が主景となっていた。なお、住友家茶臼山本邸や慶沢園作庭当時の様子は、別紙 2 のとおりである。

### (1) 作庭家（植治）について

植治は、明治後期から大正、昭和初期にかけて活躍し、日本の近代造園に大きな変革をもたらしたとされる作庭家である。他の作品には、無鄰菴庭園、平安神宮、丸山庭園などが挙げられ、国の名勝に指定されているものも多い。

植治のデザインの最大の特徴は、「原寸大の身近な自然」と「躍動する水の流れ」を自然のままに再現するところにある。池中央には大きな中島があり、クロマツや点々と浮かぶ小島が広々とした海の景観を演出する。随所に据えられた奇岩はそれらを囲むサツキと調和し、水辺の広がり演出する州浜の中に打たれた飛石は、水辺にまでのびて小島に渡ることができる造りになっている。このような慶沢園の特徴からも、植治の作庭手法を見出すことができる。

### (2) 現在の植栽について

令和 6 年 6 月末現在、慶沢園には約 1,700 本（高木・中木・低木全て含む）の樹木が現存する。植栽現況図は別紙 3、植栽リストは別紙 4 のとおりである。これらの樹木は、庭園エリアごとに、池周辺・外周樹林 1・外周樹林 2・美術館前園地・茶室用地の 5 つにゾーニングされ、庭園景観の異なる機能を果たしている。ゾーニング図は別紙 5 のとおりである。

また、慶沢園内の景観形成は、視点場を起点として考慮されているものと推定される。園内における視点場の位置図及び景観は、別紙 6 のとおりである。